

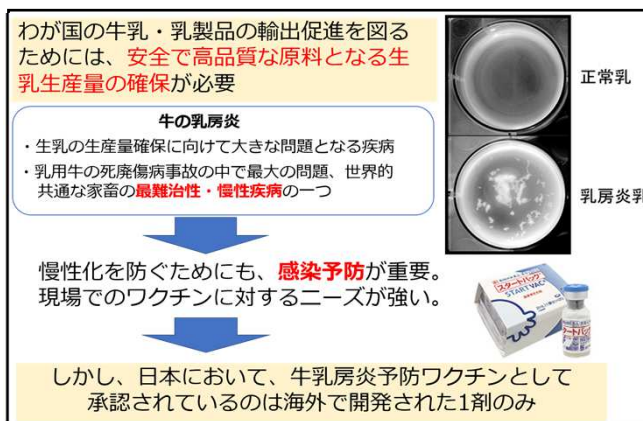
国際競争力強化技術開発プロジェクト 安全で高品質な牛乳の生産量を確保するための乳房炎ワクチンの開発 【研究概要図】

1. 研究目的

粘膜免疫および全身免疫の両方を誘導出来る乳房炎に対する新規のワクチン感作法を構築し、輸出重点品目に挙げられている牛乳・乳製品の安定的な生産のための新規の乳房炎ワクチンを開発することを目的とする。

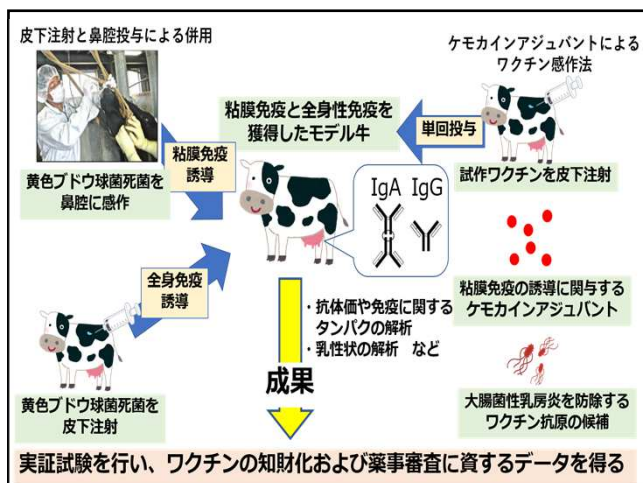
2. 研究背景

わが国の輸出拡大のため安全で高品質な生乳の生産量確保に向けて大きな問題となる乳房炎に対して新たな防除法が必要となる。ワクチンによる感染防除技術は広く活用されているが、日本国内において牛の乳房炎予防を目的としたワクチンは、海外で開発された1剤が承認されているのみで、日本の現状に即した現場ニーズに応えられていない。



3. 研究内容

- ①ケモカインアジュバントにより一度で効率良く感作が出来るワクチン接種法を開発
- ②ワクチンの標的菌種の枠の拡大のため大腸菌など他の乳房炎原因菌の新規ワクチン抗原の探索を実施
- ③粘膜免疫および全身免疫の両方を誘導出来る新規のワクチンの実証試験を実施



4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・ケモカインアジュバントによるワクチン接種法の構築
- ・実証試験により、ワクチンの知財化および薬事審査に資するデータの取得



期待される効果

- ・汎用性が高いプラットフォームになり得る新規のワクチン接種法を構築し、知財化へ
- ・動物医薬品企業と共同でワクチンの実用化・普及化へ推進

研究代表機関：農研機構 動物衛生研究部門

共同研究機関：福島県農業総合センター畜産研究所